

ふるさとの森

兵庫県の東南部に、尼崎市と伊丹市があります。2市には、多くの製造工場が立地していました。なかでも尼崎市では、数多くの町工場が繁栄していました。2市の公園には、「ふるさとの森」があります。

まず、尼崎の大物公園。阪神大物駅の近くです。近隣は工場地帯。近年、工場跡地に住宅が建ちつつありますが、同時にユニチカ(旧

ニ崎紡績)記念館、産業郷土会館など、歴史を物語る建物も残っています。

そんな地域の公園ですから、「ふるさとの森」も、集団就職に深い関係があります。中学卒業者が金の卵と呼ばれた時代、工場を抱える自治

体が、人材獲得競争を行いました。集団就職対象者の親に対して、地域をアピールする活動に力を入れたわけです。そのシンボルが、「ふるさとの森」です。

森の面積は広くありません。各地を代表する樹木を、南から北に植栽しています。たとえば南端は蘇鉄とハイビスカス。そんな森を「ふるさとをしのぶ森」としたわけです。公園の一角には、産業郷土会館を建築し、県人会の拠点づくりも行いました。集団就職者を手厚く支援する自治体の姿勢を、親に売り込んだわけです。

現在、「ふるさとの森」という掲示はありません。産業郷土会館は残っていますが、名称はふるさと交流会館に変わっています。な



▲旧ふるさとの森(大物公園)の南端

かには社会福祉協会が入居しています。「金の卵」も老人になり、介護サービスの利用者になったのかもしれませんが。そこが集団就職と関係した公園であることは、「知る人ぞ知る」世界となっています。

第2の森は、伊丹市の昆陽池公園。伊丹空港発の飛行機が左に旋回するときに見える、大きな池です。池には日本列島を模した島が作られ、水位によっては美しい列島が見えます(水位によっては、海峡がなくなるのがご愛敬)。昭和43(1968)年から整備されました。当然、金の卵とは無関係です。こちらは伊丹を故郷とする人のための森です。

同じ名前の2つの森ですが、その意味合いはまったく違います。産業郷土会館で友人に相談をし、離職を思いとどまった方もおられるでしょう。「ふるさとの森」で人生のパートナーを得た人もおられるでしょう。何人の金の卵が孵化したのか、知りたいところです。

(MBO実践支援センター代表)

中嶋哲夫の「人事も歩けば」

